Kサロン

平成26年3月8日（土）13：30～15：00　　京都ひと・まち交流館

８３期　河岸　かおりさん

「将来はどんな介護が待っているのか」

１．**介護の仕事を取りまく生活様式も大きく変わってきた！**

介護を受ける方の動作をサポートするのが介護であるとされてきました。それが随分変わってきました。① トイレは座るのが大変、トイレは自分で済ませられるのが本意。「ウオシュレット」の時代となって本当に有難い。②　食事は一番大事、でも自分で作れないことは一番困ったことに。でも今は「配食サービス」が受けられる時代に。③風呂に入りたい。これも「全身シャワー」という方式、座ったままで全身にシャワーをかけるものが出てきて大変助かる。

2.　**介護職の人は減るのか？**

生きていくには物質的だけでない、精神的なことが大事である。これまでは、掃除、洗濯、食事、風呂、トイレの支援が介護の仕事とされてきました。私は、７年前に「介護福祉士」になり、精神的な面、また家族サポート、これら「生きる力」を支援することが特に大事であると感じました。

３．**人生を豊かにするために**

大切なものは（もの・人・考え方）　キーワードは“喜び・満足・感謝・幸福”
人生、これまで大事にしてきたことは何？
たとえば「歩けること」が生きる目的にもなる。「生きがい」とも言える。
〇介護の仕事とは：その方はどんな生活したいのか。それを想像して創造に変える。
　したがって、介護は「希望の生活」を支えるということになる。
（同志社大学　くさかなおこ先生の話：生きがいを探しだす道に辿りつくには！
〇オセロゲームの話
　ある施設ではゲートボールが熱心であったが、外でゲームができないときは「オセロゲームをやってみよう！」となった。男性は負けないぞ気概が強く、３日坊主を乗り越えると「趣味」にもなる。
〇年齢を重ねてくると遠慮や我慢や頑固や面子で思いを伝えることが難しくなる。「生きがい」も見えにくくなる。これからの介護は、いかにその人らしく生きていただくかを支援することにある。そのために介護職、施設がある。
　これからの介護職は、「大切にしてきたものは何？これから大切にしたいものは何？」と必ず聴くようになる。　そして「どうやって生ききるか」を共に考える介護がやってくる。
〇将来、リニア車イスの時代が来る。精神的な支えになる介護職がいる。ご想像を！

４．**質疑応答にて**

Q.「何もいらない、早く死にたい、迷惑をかけて…とばかり言われるが？」
A．先ず、全部聞いてあげる。　「昔あれがあったから、今生きている」ということがある。
　「何がしたいの」たとえば「〇〇ばあさんとこへ行きたい」ということを聞き出せる。
Q.「支援に傾聴は含まれるのか？」
A．お年寄りには、言葉が出るように導く、すなわち「傾聴」から始まる。「傾聴」は大切な支援方法。
Q.「得意であったものを話題にしても会話につながらないのは？」
A．昔、上手であったことが、すべて良しではないこともある。大切なものも変わるということも理解を。ひとつ大切なものが見つかれば、人生も変わるということ。
Q.「ヘルパーからそんなこと聞いている暇がない。食事・洗濯・身の回りで手いっぱい。何のためにもなっていないのでは？」
A．しゃべることから始まる。作業しながらでも話しかける。今、傾聴ができるヘルパーが求められている。ヘルパー自身も、「何のために働いているのか」を追及し、作業だけで終わる仕事から技術と精神も大事にする支援することを仕事に変化することが求められている。

（レポーター　安宅吉昭）